

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の
向こうに未来が見える～』 Vol. 9

● J F Aサッカー1級審判インストラクター 唐木田 徹



新しいスポンサーでMCL開幕

みなさん、こんにちは。

4月になろうとするこの時期は、カンボジアで一番暑い時期です。天気予報の気温が37、38と、だんだん40度に近づいてきました。でも、私にとっては暑いことに変わりがないので、あまり関係ありません。先日は雨も降りました。久しぶりに、「ドッカッ！」という雨季のような雨でした。これで、去年の11月から数えて4回

目のお湿りです。

さて、今回もお題は二つ。

まず、MCL開幕の話です。

MCL (metfoe Cambodian League 2010)、metfone というベトナム系電話会社が今年から3年間、スポンサーとして年間5000万円をサポートしてくれることになりました。大金です。公務員給与の700年分！ですが、いつものことでそのお金がどこにどうやって流れるのでしょうか……。最近判明したことですが、審判部や競技部その他大会に関係している部署の部員は大会役員として登録されていて、1日10ドルが「来ても来なくても」支給されるようです。

私のアシスタントは審判部のメンバーですが、彼にアセッサーを割り当てましたら、「ブンフーン（もう一人のアセッサー、彼は大会役員登録なし）に割り当ててくれ」と言いますので、“忙しくて引き受けられないのか？”と聞きますと、「自分はメンバーだからただで10ドルもらえる。アセッサーをやると重複してもらえないから結局10ドル。だからブンフーンにやらせれば彼が10ドルもらえる」、との返答が……。

“シェアの精神、はいいけれど、アセッサーの仕事はどうするん
じゃい??”

彼はまだいい方です。必ず来て（私を運んで）、ビデオ撮影係をして
いますから。しかし、その他大勢が何もしないで（来もしないで）
10ドルを手にする。10ドルは公務員の2日分の給料。こうやっ
て、いろいろな予算が食い潰されていくのがカンボジアの現状です。



今シーズンもフェアプレーシリーズ

審判割当も最初から四苦八苦です。というのも、同じ日から地方
都市で高校の全国大会が2週間開かれ、そちらに審判がごっそり移
動したからです。審判の9割は教育省関係の仕事（事務、教師など）

ですから、行かざるを得ません。したがって、カンボジアのトップリーグMCLの開幕5試合で主審3名、副審9名という事態になってしまいました。お金の流れが尋常でないこの国で、サッカー連盟と教育省が協調していくことは当分の間は無理なようです。



結婚式前の朝食（カンボジアのおかゆ）

さて、もう一つはカンボジアの冠婚葬祭「結婚式」について。といっても、申し訳ありません、私自身の結婚式での話題を少し。

2月18日（大安）、プノンペンで結婚式を挙げました。相手はカンボジア人ですが、珍しいことに仏教徒ではなくクリスチャンです。そのため、一般的な儀式、朝7時頃にドラがなって、贈り物の果物

や飲み物その他を入れた器を100人くらいが2列になって花嫁の自宅まで行進する、を行わずに済みました。

朝8時すぎに会場到着。彼女は5時すぎから会場入りしてメイクしています。招待客はもう来ており、朝ごはんを食べています。9時頃から1時間ほど、セレモニーが神父さんによってとり行われ、終わると昼ごはん？です。



花嫁の父（私より3歳年上です）

午前の部、結婚式は親類縁者や親しい人たちで行います。

午後の部の披露宴は午後4時から。新郎新婦は玄関で出迎えです、8時頃まで。とにかく、招待客が三々五々来ます。日本のように、

セレモニーが時間通りに進む形式ではありません。招待客が10人テーブルにつくと、料理が運ばれてきます。間が悪いと誰も知らないグループと一緒に、ということもあります。おまけに新郎側、新婦側に分かれているわけではないので、へたをしますと話が全く合わない、なんてこともあります。そんなことはお構いなく、ステージではバンドをバックに歌手が歌い続けます。料理が終われば、招待客は帰って行きます。狭い会場では招待客が入れ代わるごとに片づけ、配膳が繰り返されます。



ブライドメイド（彼らも着替えて忙しいです）

乾季の11月から3月は結婚式シーズンなので、1日に2、3件の

結婚式に出席する、ということも珍しくありません。私たちの披露宴は約500人の方がみえました。カンボジアではまあまあ普通の規模です。高級役人や会社の社長（の子息）の場合は1000人を超すそうです。



東京から出席（2 & 3級審判員）

お色直しは8回！つまり8色の衣装を着替えます。男の私にとってはウンザリなのですが、上着を着替えてアクセサリーを付け替えるだけでしたので、まだよかったです。彼女の方は上下を着替え、髪型も変えるので、見ているだけで大変です。衣装替えもさることながら、化粧も「カンボジア」風で何とも……です。お世辞にも、

イケテるとは言えません。派手ならいいのか、塗ればいいのか……。



友人のナイジェリア人夫妻（とにかくデカイ）

とにもかくにも、「初めて」の結婚式は無事終わりました。

しかし、ここですんなり「目出度しめでたし」といかないところが、カンボジアです。2カ月半前に提出した結婚許可申請が、まだ下りません。カンボジア政府から日本大使館へ出された書類には、「外務省5日以内、内務省5日以内の審査後、地区役所にて約2週間で成立」とあるのに、2カ月半経ってやっと内務省へたどり着いたところなんです。しかも、地区役所からの書類に不備がある、と言われるたびに役所（バイクで2時間くらい）へ行っては取り直してく

る、また、「領収書などあるわけないでしょ」というお金を520ドル（今のところ）払って、ひたすら待ちの状態。どうやら、私の帰国には間に合わないようです。

最後の最後に問題を残したまま帰国の途に就かなければならず、「やっぱりカンボジアは最後までカンボジアだったなあ」というのが、通算1年8カ月のカンボジア滞在の感想です。

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか?」（正式にはソク・サバーイ・テー?）の意。